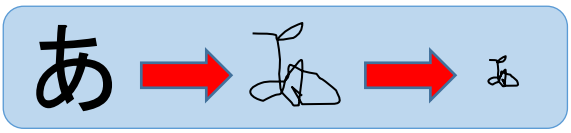
令和７年４月１４日（月）

魚沼きこえの教室だより

令和７年度　第１号

長岡聾学校小出分教室（小出特別支援学校内）
きこえの教室　担当：小池　豊
〒946－0035　魚沼市十日町 1738-2
TEL:025-792-5462　fax:025-792-5465
Email:koike.yutaka@nein.ed.jp

昨年に引き続き、長岡聾学校小出分教室の「きこえの教室」の担当をさせていただく小池豊と申します。魚沼地域の小中学校、特別支援学校へ「きこえについての情報」を発信し、先生方をはじめ多くのみなさんに、難聴や補聴器などについて関心をもっていただければと思います。そして、難聴への理解をとおして、児童生徒だけでなく、きこえについて不安を抱えている全ての方々への適切な支援や配慮につながればと願っています。初回のおたよりでは、『難聴体験』について書きたいと思います。



聞こえにくさを体験する

いろいろな方法で「難聴を体験する」ことができます。例えば、指で耳の穴をふさいだり、耳栓をしたりすると、当然、聞こえにくくなります。職員研修や難聴理解授業などでは、よくイヤマフをして疑似体験をしてもらうことも少なくありません。しかし、聞こえにくくなったとしても、実際はボリュームが下がった状態で聞こえます。文字を小さく書いたり、かすれた状態で表現したりすることで、視覚的に聞こえにくさを理解してもらう方法もあります。それでも、聞こえにくさの実感からは程遠い感じがしていました。

そんな時、春休み中に３か所をつないだオンラインの会議がありました。画像や音声の調整を行い、準備万端で始めたものの、間もなくすると声が途切れるようになりました。そこで、すぐに不具合を伝え、再調整して会議を続けたものの、一向に改善しません。結果、何度も会議の流れを止めることに遠慮もあり、必死に小さな声に耳を傾けたり、聞こえにくい部分を想像して補ったりして聞き続け、疲れ果ててしまいました。そして、終いには、事もあろうことに「おおよそ分かったから大丈夫」と考えたり、「聞こえなくても仕方ない」と諦めたりしてしまったのです。まさにこれが、難聴者の聞こえにくさであり、心理だと痛感しました。

- 聞くことに集中し、疲れてしまう。
- 聞こえなくても仕方ないとあきらめる。
- おおよその理解で納得してしまう。
- 聞こえにくさは周囲の人に理解されにくい。

みなさんの目の前にいる聞こえにくい子どもたちは、大なり小なり同じように感じながら毎日の学校生活を送っています。そして、圧倒的少数者として、そのことを訴えることを遠慮したり、ためらったりしている場合が多いのだと思います。難聴を体験することは難しいとは言え、いや難しいからこそ、聞こえにくさの心理を想像していただければと思います。きこえの教室では、子どもたちの声に丁寧に耳を傾けながら、「どうすべきか」「どうしたいか」「どう伝えるか」「どう協力を求めるか」などについて、じっくり話し合っていきたいと思います。

みなさんの学校に、このような児童生徒はいませんか？

- 毎年の聴力測定の結果が気になる。
- 片方の耳がきこえにくい。
- 発音が不明瞭。
- 声をかけても気付かないことがある。
- 聞き間違えたり、聞き返したりする。
- 言葉を平仮名で書くと間違いがある。
- 校内放送の内容がよく分からないようだ。